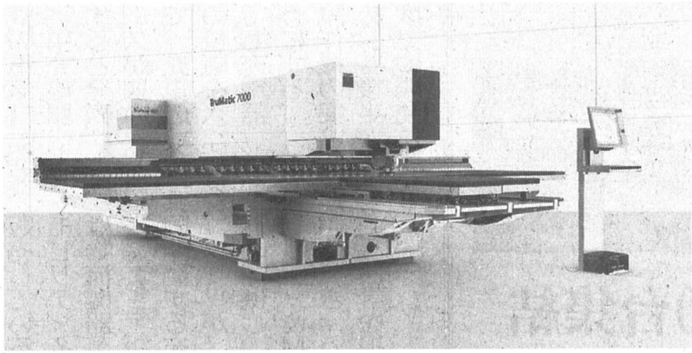
スタッドラインファスナー

独・中国製を一括提案

板金加工機 低コスト・メンテ拡充



トルンプ製パンチ・レーザー複合加工機も提案する

スタッドラインファスナー（大阪府東大阪市、西川博文社長）は、4月から独トルンプ製タレットパンチプレス機と中国ボーダーレーザー製ファイバーレーザー加工機のパッケージ提案を始める。国内メーカー製の板金加工機に比べて購入費用を抑え、新規導入や買い替えのハードルを下げる。2028年12月期までに修理やメンテナンスに対応できる営業技術スタッフを現行比2・7倍の16人程度に増やす。年間10セットの受注を目標とし、26年12月期の売上高で前期比37・5%増の5億5000万円を目指す。

国内メーカー製が高額で導入をためらう板金加工事業者に「新たな選択肢」（西川社長）を提案する。

ボーダーレーザーは自社製の発振器を生かした豊富なラインアップが強み。一方のトルンプも発振器を含めてファイバーレーザー加工機を多数そろえるが、パンチ・レーザー複合加工機の販売促進につながることからパッケージ提案を了承している。

最大加圧能力165キロニュートンの「TruPunch2000」と、ボーダーレーザーが入門型と位置付ける「Aシリーズ」を組み合わせた場合、運搬・設置費を除いた消費税抜きの価格は1億円程度という。

キャドマック（東京都港区）やランテックジャパン（横浜市港北区）が提供するコンピューター利用設計・製造（CAD/CAM）ソフトウエアも価格に含める。同ソフトでトルンプとボーダーレーザーの機械を連動し、1枚の板の上に複数の部品形状を割り付けるネスティングなどのデータ連携が容易になる。

ボーダーレーザー製品の導入検討で板金加工事業者が懸念する修理とメンテナンスに対し、スタッドラインファスナーは専門スタッフを3人配備しており、今後増員する計画。

西日本から全国に販売を広げる一環として、25年秋から大手卸売商社と連携を開始した。

パッケージ提案の開始に合わせて、4月15日から大阪市内で開かれる展示会「インターモールド」にボーダーレーザーと共同出展し実機を紹介する。

シンガポールで受注

ゴミ焼却発電 ボイラ改造

三菱重工

三菱重工業はシンガポール子会社のMHI

A）から同国西部チュアス地区の「チュアス

実現する。2027年10ー12月期に完工予

の設計・施工で00年に完成。処理能力は1日当たり3000トンで、NEAが運転・保守管理を担当している。

今回の改造では三菱重工環境・化学エンジ

計や施工を請け負うほか、完工後はプラントの安定運転のサポートも行う予定。

MHIECは1986年に運転を開始した「チュアス廃棄物焼却

の廃棄物焼却発電施設の納入実績を持つ。

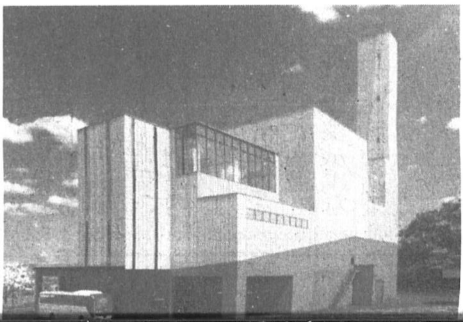
同国では、従来の機器供給・施設設計・施工だけでなく、施設の事業運営や運転支援を含めたアフターサービ

神奈川にゴミ処理場

JFEエンジ、245億で受注

設計・施工と運営 一括受託

JFEエンジニアリング（東京都千代田区、福田一美社長）は30日、神奈川県足柄上衛生組合から一般廃棄物処理施設の整備運営事業を受注したと発表した。消費税込みの受注額は245億7400万円。ストーカ式焼却炉2炉の設計・施工



運営 3月。 新 能力 トン。 町、 山北町

単一素材PTPに

CKD、ブリスター包

【名古屋】CKDはリサイクル性の高いモノマテリアル（単一素材）PTPに対応するブリスター包装技術を開発した。国内初という。錠剤を収める容器とふたの両方を樹脂化するモノマテリアルPTPは国内では、まだ流通していない。CKDは医薬品、材料メーカーと連携して製造テストを重ね、早期の実用化を目指す。

CKDが手がけるブリスター包装機は容器側とふた側のシートを、熱と圧力をかけて貼り合わせる。モノマ

テリア ふた ニウ 同じ 温度 産能 品質 を確 新 ター